

平成15年度 公共事業再評価調書（地すべり対策事業）

（事業着手後 5年以上経過し継続中の事業、**再評価後5年経過**、社会情勢の急激な変化）

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	農林水産部 農地整備課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点																																																		
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果																																																			
<p>[路線名]</p> <p>[箇所名]</p> <p>さいのかみ オノ神</p> <p>[所在地]</p> <p>由利郡鳥海町 オノ神 (オノ神工区) 下直根 (休石工区)</p>	<p>[事業の目的]</p> <p>「地すべり等防止法」に基づき地すべりによる被害を除去し、又は軽減することにより、農地や農業施設等を守り、農業基盤の維持および国土の保全を図るとともに、人家の破壊や人命等への危険等を除去し、民生の安定を図る。</p> <p>地域一帯は地すべりの発生しやすい地質構造となっており、融雪等により地すべりが発生し、農地や農業施設及び下流域にも被害が及ぶことが憂慮されるため、地すべり防止区域の指定を受け地すべりが顕著なブロックから順次、防止工事を実施している。</p> <p>[総合計画上の位置付け]</p> <p>あきた21総合計画 《政策》潤いとやすらぎを提供する農山村空間の創造 《施策》快適で生き生きした農山村づくり 《目標》県土の保全・自然生態系を育む基盤づくり 【防災対策の推進】</p> <p>[事業の内容]</p> <p>○地すべり対策事業 ○指定区域面積 78.9ha 《オノ神工区 42.30ha(S63.3.22指定)、休石工区 36.6h(S34.3.31指定)》 ○保全対象 農地 203.1ha、農業用水路 2.4km、家屋 1棟、県道、町道、河川他</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>諸元</th> <th>H10再評価時</th> <th>H15再評価時</th> <th>増減</th> <th>理由等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>1式</td> <td>1式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防止工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>集水井工</td> <td>6基</td> <td>5基</td> <td>△1基</td> <td>集水井方式から水抜ボーリング方式に変更</td> </tr> <tr> <td>水抜ボーリング工</td> <td>6,000m</td> <td>8,300m</td> <td>2,300m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土留工等</td> <td>1式</td> <td>1式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費(百万円)</td> <td>539</td> <td>564</td> <td>25</td> <td>調査解析による工法変更</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オノ神工区</td> <td>S63~H12</td> <td>S63~H17</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>休石工区</td> <td>S58~H13</td> <td>S58~H17</td> <td>4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成12年度にオノ神工区と休石工区を統合し、オノ神地区として地すべり対策事業を実施</p>	諸元	H10再評価時	H15再評価時	増減	理由等	調査	1式	1式			防止工事					集水井工	6基	5基	△1基	集水井方式から水抜ボーリング方式に変更	水抜ボーリング工	6,000m	8,300m	2,300m		土留工等	1式	1式			事業費(百万円)	539	564	25	調査解析による工法変更	工期					オノ神工区	S63~H12	S63~H17	5		休石工区	S58~H13	S58~H17	4		<p>[事業の経緯]</p> <p>H14迄 集水井工 3基 集排水ボーリング 5,909m 水抜ボーリング 4,595m 地表水排除工 1,059m H15 水抜ボーリング 250m、調査解析</p> <p>[進捗状況]</p> <p>○H15末 投資済事業費 512百万円(90.8%) ○各工区で地すべりが確認されたブロックの対策工は完了している。指定区域内の継続的な調査結果によると他のブロックに目立った動きは、現段階で確認されていない。</p> <p>[長期継続の理由]</p> <p>地すべり機構解析や地すべり防止工事の効果判定調査を実施しながらの対策であるため、期間を要している。春先の融雪等により新たに小規模な斜面崩壊等が確認されたため、工期が延伸している。</p>	<p>[社会経済情勢の変化]</p> <p>変化はない。</p> <p>[地元の意向]</p> <p>関係農家及び関係団体と連絡調整を図り現地調査、対策工事を実施してきており、本事業への期待は大きく、区域の安全が早期に確保されるよう望まれている。</p> <p>[環境対策]</p> <p>「農業農村整備環境対策指針」などに基づき事業推進している。</p>	<p>[整備効果]</p> <p>地すべりが発生したブロックの地下水及び地表水の排除工等の防止工事を実施したことにより、対策ブロックは安定化している。</p> <p>また、継続的な調査観測の結果から、区域全体の安定化が把握されている。</p> <p>[費用の変化]</p> <p>調査解析に基づく対策工法の変更及び水抜ボーリングの事業量増</p> <p>再評価時事業費より5%の増</p> <p>[費用対効果]</p> <p>被害想定額(百万円) / 事業費(百万円) = 地区全体 1,635 / 564 = 2.90</p>	<p>現在まで地すべりが確認されているブロックの対策工事は、本年度で完了する予定である。</p> <p>H16は休石工区の斜面安定工を実施し、H17まで地すべり指定区域全体の観測調査を継続し事業完了する予定である。</p> <p>3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点</p> <p>[コスト縮減の可能性]</p> <p>これまで実施した防止工事により区域全体が安定化してきており、未施工ブロックについては安定を確認のうえ事業完了する予定である。</p> <p>[代替案立案の可能性]</p> <p>なし</p>
諸元	H10再評価時	H15再評価時	増減	理由等																																																			
調査	1式	1式																																																					
防止工事																																																							
集水井工	6基	5基	△1基	集水井方式から水抜ボーリング方式に変更																																																			
水抜ボーリング工	6,000m	8,300m	2,300m																																																				
土留工等	1式	1式																																																					
事業費(百万円)	539	564	25	調査解析による工法変更																																																			
工期																																																							
オノ神工区	S63~H12	S63~H17	5																																																				
休石工区	S58~H13	S58~H17	4																																																				
再評価の結果	対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見																																																			
<p><b>継続・中止</b></p>	<p>[対応方針(案)] 現時点での計画どおり、平成17年度完了を図る。</p> <p>[理由] 本事業の実施により、地すべり防止区域全域で安定化が図られてきており、対策工の効果判定と区域全体の観測調査を継続し、安定を確認し事業完了したい。</p>																																																						